



特別授業では森高光広教授は一人ひとりに声をかけた千葉県白井市立桜台小学校で

# 第28回 読んだ感想を絵に描こう 読書感想画 中央コンクール

主催：(公社)全国学校図書館協議会/毎日新聞社/実施都道府県学校図書館協議会  
後援：文部科学省/実施都道府県教育委員会/横浜市・名古屋市・大阪市各教育委員会/全国造形教育連盟  
協賛：凸版印刷株式会社  
特別協力：大和証券グループ

森高教授が特別授業を行ったのは、千葉県白井市立桜台小学校。東京のベッドタウンとして開発された千葉ニュータウンにある。授業は2年生(児童計52人)と4年生(計53人)を対象。授業は、それぞれ計3日間行った。

2年生は指定読書の「いっぽんの木のそばで」(G・ブライアン・カラス作)の感想画に取り組んだ。同書は絵本なので、本に描かれた絵に影響されずに自由に、本の絵を見せずに読み聞かせをした。4年生は自由読書の「魔法の宅急便」(キキと新しい魔法)角野栄子著・角川文庫)を題材にした。

## 本の世界絵にしよう

森高教授が特別授業を行ったのは、千葉県白井市立桜台小学校。東京のベッドタウンとして開発された千葉ニュータウンにある。授業は2年生(児童計52人)と4年生(計53人)を対象。授業は、それぞれ計3日間行った。

2年生は指定読書の「いっぽんの木のそばで」(G・ブライアン・カラス作)の感想画に取り組んだ。同書は絵本なので、本に描かれた絵に影響されずに自由に、本の絵を見せずに読み聞かせをした。4年生は自由読書の「魔法の宅急便」(キキと新しい魔法)角野栄子著・角川文庫)を題材にした。

## 感じたことを表現

2年生はまず、スポンジを自分の好きな形に切り、それを使って絵の具で「木」を描くことから始めた。最初に筆を使わないのは、絵が苦手な子でも抵抗なく取り組めるからだ。授業が進むにつれ、子どもたちは次第に熱中し、カプトムシを描き込んだり、男の子や女の子、家を描くなど、それぞれ独自の作品に仕上がっていった。

この間、森高教授は机の間に回りながら一人ひとりに「いいねえ」「おもしろい形だね」などと子どもに声をかけるが「こうしたほうがいい」とか「ここはこう描こう」などと具体的な指導はほとんどしない。子どもたちが自分の描きたいものを描けるように支援しているのが印象的だった。

一方、4年生は、紙を丸めるなどして、筆の代わりになる道具を作るところから始めた。その独自の道具で画用紙に自由に色を塗った。その後「魔法の宅急便」に出てくる「ウタウモ」を描くことにし、綿棒などを使い、思い思いの「ウタウモ」に取りかかった。ここでも森高教授は細かい指導はせず「いろんな色を使ってみよう」「白いところが残ってもいいよ」と声をかけていた。

も、絵に取り組んでいる子ども、絵に何人もおり、感想画を描くことに熱中しているのが印象的だった。

森高教授は「これも子ども個性がよく出ている絵です」という感想だった。そのうえで「一人の子の絵を『上手』とほめると、表面的なまねだけに陥ることがあります。ほめるのは難しい」「子どもが描きたい絵を自分のこだわりを持って描くことが大切です」と話していた。



もりたか・みつひろ 千葉大学教育学部卒。中学、小学校教員を経て、2013年から現職。造形教育・美術科教育専攻。第1回中央コンクールから読書感想画制作を指導している。著書に「はじめよう読書感想画の実践」など。1956年北海道生まれ。

## 自由な発想を育てる

植草学園大学 森高光広教授

——読書感想画コンクールの経緯を教えてください。

森高教授 コンクールは1983年に近畿学校図書館連絡協議会と毎日新聞社の共催で始めました。目的は「読書の感動を絵画表現することにより、児童・生徒の読書力、表現力を養い、読書の活動を振興すること」です。86年には関東地区でもコンクールが始まり、全国学校図書館協議会の共催になりました。89年に「読書感想画中央コンクール」となり、2013年から北海道も加わり、今では38都道府県で実施しています。

——読書感想画の意義はどこにあるのでしょうか。

森高教授 読書活動の充実と表現活動の充実です。読書指導と絵画指導は車の両輪です。お互いが刺激しあうわけです。

——学校教育の中で読書感想画のねらいはありますか。

森高教授 読書感想画の狙いは発達の段階で違います。また、国語科であるのと図工科であるのでは目的が違います。ただ、共通しているのは「意欲を高める」ことにあると思います。具体的には「絵を描くとおもしろいな。もっと絵を描きたいな」という絵を描く意欲です。さらに「本を読むとおもしろいな。もっと読みたいな」という読書の意欲、もう一つは読書感想画っておもしろいな。また描きたいな」という読書感想画に対する意欲です。この三つの意欲を持って学べるように思います。

——読書感想画を指導されている先生や、保護者へのアドバイスをお願いします。

森高教授 特に小学生の段階では「いっしょに描きたいな」「こういう型にはめないでほしいですね。絵画は自由なものです。その子がやるうとしていくことをもっと大事にしてあげるといいと思います。

### 応募要項

用紙は画用紙・ケント紙・キャンパスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでもよい。絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵の具など自由。版画・はり絵も可。寸法は36センチ×25センチ以上で、55センチ×40センチ以下の大きさ。立体など厚みのあるものは不可。

所定の応募票(コピー可)を作品裏面の右上に、作画感想(200字以内)を左下に貼って提出。1人で指定読書・自由読書それぞれ1点応募できる。作品は在籍校に提出すること。入賞発表は来年2月下旬の毎日新聞、毎日小学生新聞、学校図書館速報版紙上で。

問い合わせは、毎日新聞社「読書感想画中央コンクール」係(03・6265・6816)へ(平日10~17時)。<<http://www.dokusyokansoubun.jp/kansouga/>>に詳しい要項と各地域の提出締め切り日、過去の入賞作品などを掲載しています。